

神奈川県立津久井支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 津久井支援学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年1月13日(火)9時30分～11時30分
開催場所	神奈川県立津久井支援学校 3階 会議室
出席	学校運営協議会委員6名 事務局10名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 学校評価(校内評価) ・学校評価 保護者・教員・生徒アンケート集計 ・つくいだより 10・11・12月号 ・令和7年度研究公開のご案内
議事録	<p>1 開会 (1) 校長あいさつ (2) 会長あいさつ</p> <p>2 学校目標に向けた取り組み状況について (1) 学校評価 保護者・教員・生徒アンケート集計報告(副校長) 一人一台端末を活用した、児童・生徒の「やってみたい」を引き出す授業改善」の取組について、保護者の評価や職員の意識が高まっている。また、取組を通して、本校のめざす子ども像に近づいていることが読み取れた。改善が必要との評価や、調査対象による評価の違いに着目し、課題として取組に反映したい。</p> <p>(2) 校内評価の報告 ①教育課程・学習指導 ②児童・生徒指導・支援 ③進路指導・支援 ④地域との協働 ⑤学校管理・運営</p> <p>5つの視点について、具体的な取り組み状況を総括教諭から説明</p> <p>(2) 重点的な取り組みの報告 ・給食及び教科横断的な食育の取組 栄養教諭から説明</p> <p>3 各部会の取組の報告 ・切れ目ない支援部会の取組について、連携支援GLから報告</p> <p>4 教育活動の視察</p> <p>5 協議 【アンケート結果について】 ・保護者の回答率を向上させるための工夫として、送迎時言葉かけや、行事等での来校時に合わせて、回答の機会を設定する等の提案があった。 ・「進級や成長に応じた指導支援の充実」「業務の効率化」の項目で、取組内容や成果が職員の実感に結びついていないことが読み取れた。取組の目的と方針の共有、成果の見える化により、共通理解をはかり、認識の差を埋</p>

	<p>めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・障害理解、心理面への配慮等、専門性向上に関する記述がある。保護者と連携を強化し、安全・安心な学校生活となるよう、実態と課題に応じた支援の充実及び、対応の改善を図る。・調査対象による評価の違いに着目、年度内に対処策を検討し、できることから取組を始めていく。 <p>【教育課程・学習指導について】</p> <ul style="list-style-type: none">・「特色を生かしたわかりやすい教育課程編成」に向け、時間割、教科等の扱いの整理を進めてきた。次年度の教育課程に反映する。・ICT機器を活用した授業実践について、保護者の理解を推進するためにも、学校の取組がわかるよう、取組の発信方法の工夫や改善をすすめてほしい。 <p>【進路指導・社会参加について】</p> <ul style="list-style-type: none">・意思決定支援について、個別教育計画作成・評価等に関する面談、進路面談に高等部の生徒が出席し、自分事として考える経験を重ねる中で、主体性の育成に繋げることができた。・進路指導において、日々の学習に加え、仕事体験、実習等幅広い職種に取り組んでおり、とても良い。進路指導において、業務マッチングの視点だけではなく、あいさつ、報告等、社会性を育むことを大切にしてほしい。 <p>【地域等との協働】</p> <ul style="list-style-type: none">・インクルーシブな学校づくりにむけ、地域の小学校、中学校、高等学校との交流、事前の出前授業等を通して、同じ仲間として同じ土俵でできる取組を模索している。優劣ではなく、同じ立ち位置で、認め合う視点を大切にすることが重要である。・支援学校は何をしているのかを、地域に伝える取組の強化が望まれる。地域の特産物（お茶）を通した食育は、発展性がある。大学や企業との連携の事例も参考にしながら、地域の伝統、特産物に対して教育活動を通して貢献できるとよい。 <p>【学校運営・働き方改革について】</p> <ul style="list-style-type: none">・組織の再編によるOJTとチームによる業務遂行の推進、ICT機器の活用、職員ミーティングによる主体的な参画と意識改革を通じて、業務の効率化と働き方改革を進めてきた。しかし、業務の効率化が進んだと職員が実感するに至らなかった。・業務改善に伴う一時的な負担の増加、取組の経過、達成状況の周知不足を課題としながらも、長期的な視点で振り返り、評価をすることで見えるものがあるのではないか。 <p>【切れ目ない支援部会の取組について】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校を中心とした地域と、児童・生徒の居住地を中心とした地域には開きがある。居住地とのつながりを考えていく必要がある。・顔が見える関係づくりは大切なことである。支援が途切れないよう、支援の仕組づくりを具現化するようすすめてほしい。 <p>6 閉会</p> <p>(1) 校長あいさつ</p> <p>(2) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none">・公開研究発表会：令和8年1月28日（水）・学校運営協議会全3回終了・令和8年3月3日（火） 有識者による第三者評価 <p>以上</p>
--	---